新リーダーを迎え第２の創学へ

特集①

学園長・学長対談

東日本大震災後、日本の社会基盤が揺らぐような状況の中にあっても、文京学院は被災された方々の厳しい現状を思いつつ、ニューリーダーを迎えて新しいスタートを切りました。この3月、文京学院大学・短期大学の島田燁子学長が学長職を退任し、4月より川邉信雄・早稲田大学商学術院教授／同大中国ビジネス研究所所長が新学長に就任されました。島田先生は、今後も理事長・学園長として川邉学長を支えます。

「自立と共生」建学の精神で

島田　川邉学長がいらした早稲田の商学部には色々ご縁がございます。大学院経営学研究科を開設するにあたり、会計学の大家である弁井清光先生に委員長をお願いし、基礎を固めていただきました。商学部教授の峰島旭雄先生には、本学の人間学部にお越しいただいています。

川邉　私の早稲田での恩師が新潟経営大学の学長に就かれ、島田学園長（当時学長）と対談されたことがあります。恩師から島田学園長の素晴らしさ、基礎がしっかりとした文京学院の堅実さなどを聴いていましたので、私は何のためらいもなく文京学院に参りました。

島田　さて、川邉学長をお迎えして、3月11日の東日本大震災後、被災された方々を思い、私たちにできることとして、大学・短大の入学式を「入校式」として執り行いました。川邉学長と私は「大学で学ぶ意味「本学の特徴」「育ってほしい学生像」についてお話しました。川邉学長はどのようにお感じになりましたか？

川邉　新入生は、緊張感を持って式に臨んでいたようです。今回初めて導入した各学部の代表学生による「入間共生論」が全学部で必修科目になり、各学部で講義をしましたが、どの学部も学生の受講態度がとても素晴らしかったのです。きっと、「依史子先生のように、諦めずに初志貫徹できる人間になりたい」と感じてくれたことと思います。

川邉　今回の震災関連で、文部科学省から「子ども支援プロジェクト」の要請がありましたが、本学の学生はそれ以前に活動を始めていて、今回は人間学部の学生たちが被災地に届けましたね。

島田　日ごろから地域との連携があるため、皆さんが即、協力してくださったそうです。

川邉　今、大学は地域の活性化に大きな役割を果たしていますので、若者が沢山いるということは力の源でもあると思います。

島田　川邉学長もまた、青春の気がみなぎっていらして、大変心強いです。

川邉　島田学園長は20年間学長を務められ、その間、単科の大学から4学部9学科、さらに4研究科の大学院を持つ総合大学へと導かれたのですから、大変なエネルギーをお持ちです。

島田　教職員、理事会、評議員会はじめ皆様のご協力あってのことですから。

川邉　現場に出られて、学生や教職員の様子をよく理解されていらっしゃいますね。お母さんのように周囲を包みこみ、その上で形として成果を出すということは、本当に大変なことです。

島田理事長／学園長（左）と川邉学長（理事長室にて）

島田燁子先生（しまだあきこ）プロフィール
学校法人文京学園理事長／学園長。西洋哲学・倫理学研究者。職業倫理に関する著書・論文も多く、教育界だけでなく、文部科学省中央教育審議会専門委員、日本私立大学協会評議員、日本私立短期大学協会常任理事等、国の審議会委員などを兼任。

川邉信雄（かわべのぶお）先生プロフィール
文京学院大学・文京学院短期大学学長・教授。専門は経営史、国際経営。著書・論文『新版セブンイレブンの経営史―日本型情報企業への挑戦』など多数。早稲田大学商学学術院教授、早稲田大学ヨーロッパセンター所長代行、ベニス国際大学客員教授などを歴任。経営史学会国際交流委員長、日本証券奨学財団評議員ほか。

日本のルーツを探る「新・文明の旅」プロジェクト

島田　さて、「新・文明の旅」プロジェクトの人気が高まっているので、とても楽しみにしています。私も文京生涯カレッジで「新・文明の旅―ユーラシア大陸へ」をタイトルにお話しました。世界的にご活躍の川邉学長は、ウズベキスタンに講義にいらしたことがあるとお聞きして、行き方や現地のお話など色々ご質問しましたね。

川邉　日常的なニュースとして、ウズベキスタンの話題は入りませんから、ご存じない方が多いかもしれません。私が一番驚いたのは、私たちの感覚では「人種が違う」と思える人たちであっても、あちらでは「人種的に同じ」と言うのです。それは、ユダヤ系の人たちのように「宗教的に同じ」ということではなく、例えばトルクメニスタンは、広義のトルコ系の人種の国という意味になります。

島田　これまで歴史の表舞台には出ていませんが、何千年も前から中央アジアで生活している人々ですね。

川邉　ちょうどルーマニアが「ローマ人の国」という意味があるのと同様です。ですから、この「新・文明の旅」は、かつて日本が影響を受けたいろいろな文明や人種が複雑に入りまじった国々を巡るということでもあるのです。

島田　シルクロードを通って日本に来たあちらの文物が、正倉院にありますね。

川邉　はい。日本に色々な文明の文物が溜まったという形なので、日本はとても面白い国なのです。

島田　それを日本人は上手くアレンジして、発展させていますね。

川邉　その通りですね。ですから欧米ではなく、日本のルーツをたどるような「新・文明の旅」は本当に良い企画だと思います。島田学園長が生涯学習の一環でお話されたとのことで感じたのですが、ある程度の年齢の方々も大変それらの国々に興味をお持ちです。先生方の講義後、万全を期して実際に現地へ行くと、かなりスケールの大きな学習になるのではないでしょうか？

グローバル社会を生き抜ける学生を育成

川邉　国公立と私立大学の役割はそれぞれ違っています。私の一番大きな役割は、創立者の建学の精神をさらに推進していただけるよう支援し、学園が少しでも新しい方向に進めるよう学園長として努力していきたいと思います。

島田　川邉学長は大学人として経験が長く、国際性に富んでいらっしゃいます。今後も本学の国際化をさらに推進していただけるよう支援し、学園が少しでも新しい方向に進めるよう学園長として努力していきたいと思います。

川邉　国際化がグローバル化に動くようになりました。これまで物事は1国の範囲で考えられてきましたが、これからは本学の学生たちがどの国でも生きていける能力を身につけさせたいと考えています。

そのためには、先生方にもグローバルに活動していただく必要があります。「新・文明の旅」の事前視察教職員が訪問したアンカラ大、ソフィア大、ヴェリコ・タルノヴォ大、アレクサンドル・イオン・クーザ大は現地の有力大学であり、日本に興味を持つ優秀な先生方が沢山いらっしゃいますから、共同研究を行ったり、先生同士の交流を盛んにして、お互いが授業を担当することができるようになると理想的ですね。島田学園長が積んでいらした業績に、私らしさを加えてさらに発展させられればと考えています。

島田　ありがとうございます。さて、ふじみ野キャンパスは予定通り授業を開始し、本郷キャンパスは1週間遅れてスタートしました。しかし本郷キャンパスにおいて、夏場には東京電力との契約電力を多少オーバーしてしまい、追徴金を支払っている状況です。福島第一原子力発電所の事故を受け、本はお金で済む問題ではありませんので、節電が重要課題です。

川邉　了解しました。大切な課題として全学に働きかけ、一致団結して節電に取り組みましょう！